

26日 木曜

エペソ



5:1 ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。

5:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。

5:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、淫らな行いも、どんな汚れも、また貪りも、口にすることさえしてはいけません。

5:4 また、わいせつなことや、愚かなおしゃべり、下品な冗談もそうです。これらは、ふさわしくありません。むしろ、口にすべきは感謝のことばです。

5:5 このことをよく知っておきなさい。淫らな者、汚れた者、貪る者は偶像礼拝者であって、こういう者はだれも、キリストと神との御国を受け継ぐことができません。

5:6 だれにも空しいことばでだまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順の子らに下るのです。

5:7 ですから、彼らの仲間になってはいけません。

5:8 あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。

5:9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。

5:10 何が主に喜ばれることなのかを吟味なさい。

5:11 実を結ばない暗闇のわざに加わらず、むしろ、それを明るみに出さなさい。

5:12 彼らがひそかに行っていることは、口にするのも恥ずかしいことなのです。

5:13 しかし、すべてのものは光によって明るみに引き出され、明らかにされます。

5:14 明らかにされるものはみな光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ、起きよ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」

「愛のうちに歩む」という良い行いの動機は、神様に「愛されている」という自己像から始まります。愛されている人は誰でも、これから愛される自分でありたいと願うものです。主からの愛にいつも気づいて、愛されている自分の価値を発見し続けていきましょう。

下品な話が雰囲気や和ませるとか、ストレス解消になると考える人もいますが、そうではありません。（テレビのお笑い芸人でも、下品なネタでなくても大いに笑わせている人々がいますし。）ユーモアがあって、和ませて、楽しい人でありつつ、「感謝」と信仰を表し、「光の子どもらしく」歩むことはできます。

下品なことばによって、次第に不従順な者たちの仲間にならないうようにしましょう。いつも主の光の中を歩みましょう。そのような生き方の、すばらしさと喜びを味わって生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

